



とうきょう すくわくプログラム

2024年度活動報告書

杉並西荻窪雲母保育園



テーマ【光と影】

設定した理由・背景

園庭や芝生などで自然光を浴びて遊ぶことが大好きな子どもたちなので、光と影を感じ、様々な発見を通して不思議さや面白さを感じながら興味関心を持ってほしいという思いからテーマを設定した。

用意した環境設定

懐中電灯、カラーセロハン、ブロック、トイレットペーパーの芯、スクリーン、プロジェクター、パソコン、ライトテーブル、アクリル水槽、暗幕、webカメラ、三脚

活動のあゆみ

- ① 1月28日 10:30～園庭で光と影探し
- ② 2月20日 10:30～室内で光と影遊び
- ③ 2月26日 10:30～光と色・影遊び
- ④ 2月28日 10:00～カラーセロハン双眼鏡作り
- ⑤ 3月5日 10:40～園庭でカラーセロハンの双眼鏡を覗く
- ⑥ 3月6日 10:30～水と光の遊び
- ⑦ 3月14日 10:20～スクリーンで光と影遊び

✧探究活動の実績✧

①室内で過ごしている時、晴れの日に室内に入ってくる太陽の光を指差して「ここだけ明るくてあったかいね。どうしてだろう。」という問いかけから『光』に着目をした後、園庭で子どもたちの影を指差して「みんなの影がここにあるよ。どうしてだろう。」という問いかけから光と反対の『影』に着目をし、『光と影』についての探究活動を行った。

↓

②子どもたちと室内や園庭で光と影を探し「光っているところは暖かいね」「暗くて影になっているところは寒いね」等、子どもたちに光と影の存在を知らせると「光っているね」「暗いね」と子どもたちが呟き、明るい所(光)と暗い所(影)の違いに気づく姿が見られた。

↓

③ウォーターブロックを使った活動では、太陽光にブロックかざして光っている色を見て、友だち同士で「赤だね」「青だね」と色の名前を言い合っていた。暗い保育室で懐中電灯を使った活動では、懐中電灯を持つと「わぁーすごい」「光っているね」と自分で懐中電灯を操りながら光の動きに夢中になっていた。

↓

④戸外に出ると、自分の影を指差して「先生見て、動いてる」と自分の影に反応したり、室内に入ってくる太陽の光に手をかざしたりし、光と影の存在に気づくようになった。また、今回行った光と影の活動に興味を持ち「またやりたい」と言うようになった。



ウォーターブロックで遊んでいる様子。



懐中電灯を光らせている様子。



園庭で双眼鏡を覗いている様子。

まとめ

今回「光と影」というテーマに沿って様々な活動を子どもたちと一緒に楽しむことが出来た。普段、晴れた日に室内に入ってくる何気ない太陽光でも、光っている温かい場所と暗く影になっている場所を見比べるだけで子どもにとっては1つの新しい発見になっていると感じた。その他にも、保育室内で懐中電灯を使って光と影を探したり、自分たちで作ったカラーセロハン双眼鏡を持って園庭で外の景色を見たりなど、テーマに沿いながら新しい遊びや発見を楽しむことができた。



とうきょう すくわくプログラム

2024年度活動報告書

杉並西荻窪雲母保育園



こどもの「すくすく×わくわく」をおうえん

テーマ【 自然 】

設定した理由・背景

園庭や公園で、ありやだんご虫をみつけると、みんなが集まり興味をもって触れ合うことを楽しんできました。冬には「どんな生き物がいるのかな。どんな自然があるのかな」子ども達の疑問や不思議さに寄り添いながら、わくわくどきどきできるような探索をしていきたいと思った為。

用意した環境設定

・子どもたちが自然に興味を持てるよう、ライトテーブルで葉脈を観察し、虫眼鏡でダンゴ虫の足の動きをじっくりと観察が出来る環境を用意しました。また、園庭や散歩コースで葉っぱや虫を探せるようにし、実際に触れたり比べたりすることで、発見や疑問が生まれるよう工夫しました。

・購入物品

虫眼鏡、クレパス、画用紙、サインペン、スクリーン、ライトテーブル、暗幕、水槽、webカメラ、水槽、プロジェクター、パソコン、スクリーン

活動のあゆみ

- ①11月15日 10時～11時 大宮前公園で生き物探し。
- ②12月6日 10時～11時 図鑑で虫クイズを行う。
- ③12月18日 10時半～11時 虫眼鏡で細部の観察を行う。
- ④1月9日 10時～11時 氷を触ってみる。
- ⑤2月10日 10時～11時 虫になりきって表現遊びを行う。
- ⑥3月15日 10時～11時 模造紙にまとめる。

※探究活動の実績※

- ①普段から園庭に出ると、「虫さんいるかな」「きれいな葉っぱがあったよ」と自然物を集めて楽しむ姿が見られたので、保育士の「冬にはどんな虫さんがいるかな」「どんな色の葉っぱがあるかな」との問いかけから、自然についての探究活動を始めた。↓
- ②「お外に行って探してみよう」と戸外活動で自然物探しを行った。↓
- ③見つけた赤や緑の葉っぱやダンゴ虫を「見て!」と友だちに見せ、「どこにいたの?」と一緒に探す姿があった。ライトテーブルを使って落ち葉や虫の観察を行い、「ダンゴ虫は足がいっぱいあるね」「葉っぱには縦の模様がっぱいあるね」と、細かいところがよく見えることで新たな発見があり、ワクワクする姿があった。園庭では水たまりが凍っていることに気が付き、触ると「冷たいね」「キラキラしているね」と自分なりの言葉で感触を表現する姿があった。虫の興味が高まった子どもたちに、自分の好きな虫を選んでもらいお面の制作を行った。それぞれが虫になりきってその虫の動きを真似て子どもたちが自分で表現をして動きを楽しんだ。↓
- ④暖かくなったらどんな虫たちが出てくるのか、どんな自然物が見つかるか楽しみにしていた。



ライトテーブルで葉っぱ観察



水が氷か触っている様子



なかなか動かないダンゴ虫を起こそうとしている様子

まとめ

子どもたちはライトテーブルで葉脈を観察し、虫眼鏡でダンゴムシの足の動きを見ながら、発見や疑問を友だちと共有し、考えを深める姿があった。保育者は答えを出すのではなく、子どもたちの探求心を引き出すことを大切にしていた。今後も季節の変化を感じられる活動を通して、「なぜ」「どうして」と考える力を育てていきたい。



とうきょう すくわくプログラム

2024年度活動報告書

杉並西荻窪雲母保育園



テーマ【 音 】

設定した理由・背景

音遊びやリズムが好きでリズムに合わせて自分なりに表現することを楽しんでいる子どもたちです。普段の生活音や様々な環境での身近な音に気付き、どんな音が聞こえてくるのかクイズや音遊びで楽しみながらいろいろな音に探求心を深めていきたい。

用意した環境設定

シロホン、ミニキーボード、ギロ、ハンドウッドブロック、シンバル、ペーパーカップ、鈴、タコ糸、スクリーン、マット、グロッケン、暗幕、木琴スタンド、和太鼓、webカメラ、三脚、プロジェクター、パソコン、スクリーン

活動のあゆみ

2025/2/4 身近な音を聞く

手作り楽器を制作する

2025/2/7 音当てクイズ

2025/2/18 楽器遊び、手作り楽器を制作する

2025/3/5 楽器遊び

2025/3/10 合奏する

2025/3/18 動物になりきってミュージック山を探検する

※探究活動の実績※

①日々の保育の中でリズム遊びやリズム遊びを夢中で楽しんだり、音楽に合わせて自分なりに体を動かして表現したりと音に興味を持っている様子があった。音楽や楽器以外の生活音や環境音で「これは何の音かな?」「どんな音が聞こえる?」と保育士に問いかけたところ「〇〇の音に似てる」「〇〇かなあ」と身の回りの音にも興味を持ち始めた。保育士の「これは何の音かな?」という問いかけから音についての探究活動を始めた。

②音当てクイズでは楽器の音はすぐに分かる子が多かったが、生活音や環境音は気付くまで自分なりに考えたり友達同士で何の音か話し合う姿があった。保育者は「〇〇の音にも似てるね」「〇〇する時に聞く音だよ」などの声かけを行っていった。

↓

③活動では初めに身近な環境音や生活音を聞き、色々な音に興味を持てるような活動を行っていった。その後音をイメージしながら手作り楽器を制作したり実際に楽器を使って音遊びを行い自分たちで作った楽器を使い合奏を行った。子ども達自身が主体となり考えたり工夫しながらどんな音が出るのか楽しみながら活動に参加していた。サーキットに音遊びを取り入れ動物になりきって友だちとどんな音がするのかわくわくドキドキする姿も見られ好奇心旺盛で夢中になる様子が見られた。

↓

④終わりの時期の姿・まとめ



3歳児クラスが糸電話で友だちと話す様子



3歳児クラスが音遊びのサーキットに取り組む様子



廃材を使って手作り楽器を制作する様子

まとめ

今回の活動を通して保育者が率先して活動の中で子どもたちが主体となって遊びや活動を展開していている様子を見て子どもたちが発見した気付きや疑問点を次の活動に繋げ継続していきたいと感じました。また最初は活動に消極的な子どももいたのですが活動を行っているうちに自ら気付きを発見して友達や保育者に伝えたりと、音に対して興味を持ち探求する姿があり活動を通して音に興味を持つだけでなく子ども同士の関わりや興味も深まっていることに気付き活動を行ってよかったと感じます。



とうきょう すくわくプログラム

2024年度活動報告書

杉並西荻窪雲母保育園



テーマ【 英語 】

設定した理由・背景

毎月の献立の中で外国の料理が出ると国旗や世界地図の絵本で調べたり、自分の知っている英語を友達と共有したりして楽しんでいました。

用意した環境設定

スクリーン、暗幕、webカメラ、三脚、プロジェクター、パソコン、スクリーン、英会話受講、英語絵本、イラストカード、英会話レッスンワーク、世界地図帳、国旗図鑑、はじめて図鑑（日本語と英語でものの名前が書いてあるもの）

活動のあゆみ

○制作活動で使用する色画用紙や折り紙から色クイズをする。11月

○はじめて図鑑に出てきたものの英語クイズをする。12月、1月

○1月21日から週3回（火、木、金）

11:00～11:15 4歳児、11:20～11:35 5歳児

○フィリピンの食べ物や市場について調べ、英語の時間に質問をする。（3月21、25日）

✧探究活動の実績✧

①保育者から「赤は英語でなんて言うかな？」と問いかけると「レッド！」と答えが挙がった。「他の色やものは英語でなんて言うんだろう？」という問いかけから探究活動を始めた。

②色は簡単だったようで知っている子はどんどん答えていた。紙や椅子、机など身の回りの物について聞くと「なんて言うんだろう？」と興味を持った様子だったので、異文化についての探究活動を始めた。フィリピンの先生とレッスンを通してやり取りをするようになってからは、英語で何を話しているのか簡単に翻訳して子どもたちに伝えたこと、どんな返答をすると伝わるかを教えたことで積極的に英語でのコミュニケーションを取るようになった。

③日本語とは違う言葉の響きに初めは面白さを感じ、「変なの」と笑うこともあった。面白さを感じたフレーズの日本語訳を聞いてからは「これってこういう意味だね」「そしたら次はこう言っているんじゃないかな」と予測して英語を聞くようになった。

④フィリピンの食べ物や文化にも興味を持ち、簡単な英語で質問をするようになった。興味や探求心を深めながら異文化交流や日本語ではない言語に親しむことができた。



レッスンでフィリピンの市場の様子を聞いた時の様子



フィリピンの食べ物を見て大きさを予想している様子



保育者とフィリピンについて調べたことを見ている様子

まとめ

子どもたちの中で疑問や探求心が生まれた言葉は都度調べて共有したことで、進んで調べた英語を話してみたり「じゃあこれはなんて言うの？」と新たな探求が生まれていた。来年度は今年度よりも、フィリピンについて調べたり英語の絵本を読んだりしてレッスンで楽しんだことを更に広げて深めていけるような時間をもっと増やして行けると良い。